

平成21年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）

「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏 名	伊東暁人
講義コード	2374035010		講 義 名	経営情報論
開講曜日	月&水 曜日	3・4 時限	専門科目	
授業回数	29 回	休講回数	1 回	補講回数 0 回
				受講登録者数 80 人
成績評価に際し注意した事項				
評価方法は課題小レポート3回(30%)＋期末筆記試験(70%)。基礎的な概念の理解と日頃の勉強の積み重ねがわかるような設問・評価を心がけたつもりである。				
報告内容				
1. アンケートの設問別平均値について				
CSグラフで満足度との関係で相対的に改善が必要とされた(第4象限にある)事項が6項目に及んだ。一昨年に実施した当授業のアンケート結果では2項目だったので、相対的にはより改善が必要になったということになるのか。とりわけ、「設問12. 授業の難易度～」(平均6.0、満足率45.2)では満足度が初めて5割を切っている。一昨年よりもやや多い内容ではあるが授業時間数も約2倍となって、VTR等も用いながらより具体的な理解が進むよう心がけたのに満足率が落ちたことは正直理解できない。教科書、レジュメ、参考資料、PPT、VTRなど、多岐にわたる教材を用いた講義で、その一つ一つをすべて丹念に解説する授業ではないので、十分な予復習をして臨まないでと要点が理解できず消化不良となる感はあるかもしれない。しかし、わかりやすくする努力はするが、内容を易しくすることはできない。なぜならこの講義は、全国の学部教育で使用されている標準的なテキストに沿って行われており、経営学の基礎的な素養ができていないはずの大学3・4年生にとって決して無理なレベルの内容を押し付けているわけではないので。優先順位、重要度、メリハリをつけるなどの改善はしたいと思うが、満足率が低いからと言ってレベルを落とすことはできない。授業改善は重要であるが、それとともに学生諸君もこちらの想定している勉強をしてくれないと内容の深い理解や授業の有意義さは高くないと思われる。				
2. 記述式回答をみて				
記述欄の記述自体あまり多くない(4)ので、その意見を過大に評価することもできないが、「詳しい資料が用意され深みがあった」と評価する声が寄せられる一方で「プリントがわかりにくい」「重要ところを強調してほしい」といった改善の要望が出されている。プリント等は改善していきたいと思うが、要点がなにか？何が重要なのか？を自ら考えつかむのも講義の大事な要素であると思うので、あんまりお手軽にポイントだけを理解(覚える?)しようとしないうほうがよいのではないのでしょうか。				
3. 今後の取り組みについて				
本科目は隔年以上の間隔で開講されるため、来年度の開講は予定されていない。経営情報論は現実の企業・社会の情報化をおもな対象としているので、実務や社会経験の乏しい昼間の学生にとっては内容をイメージすることが困難かもしれない。この部分のフォローは難しいが、なるべくわかりやすい事例や学生でも経験できることなどを生かした授業を構築してみたい。				
4. 授業改善のための学生への要望				
アンケートの回答率が39.0%という数字が示しているように、この授業の出席率は平均的には履修登録者の半分以上であろう。「出席して寝ているくらいなら出席しなくてもきちんと自分で勉強できるならそれでいいよ」というのがこの講義での私のスタンスであり、それなりの工夫(Webによる教材の事前提供、メールによる質疑など)もおこなってきた。逆に、授業だけ出てきてただ座っていれば簡単にわかるというレベルではない。教科書や参考文献などを各自で授業時間外に学習しないと十分に理解することは難しいであろう。試験の結果はそれを理解してがんばってくれた学生が多かった一方で残念ながら「出席もせず勉強もしない」学生も少なからずいたと推測される。授業だけでわかろうとせずに、授業時間以外にしっかり勉強時間を確保するようにしていただきたい。				

